

安全管理セルフチェックシート

①安全管理に関するマニュアルはありますか？

はい ・ いいえ

特にレッスンが行われるコートでは、多くのお客様がたくさんボールを使用しますので、事故の発生率も高くなりがちです。クラブとしてのルールや決まりごと、禁止事項等々をマニュアル化することで、コート上での安全管理を標準化することができます。それが事故を未然に防ぐことにもつながります。

②事故発生時の対応方法についての掲示物はスタッフルームにありますか？

はい ・ いいえ

事故視認者、受付者がどういう順序で対応するか、またどういう流れで責任者（経営者）まで報告するのかが明確になっていると、事故発生時に慌てることなく対応できます。

③近隣の救急病院・医院のリストはありますか？

はい ・ いいえ

近隣の病院・医院のリストは必ず必要となります。休診日、診療時間も明記し、フロント、コーチ控室、事務所等、複数カ所への掲示をしておく対応が早くなります。

④AEDは設置されていますか？

はい ・ いいえ

AEDがあったから救命できた！という事例もあります。AEDのパッド・バッテリーは使用期限が定められています。必ず確認しておきましょう。AEDは日本テニス事業協会経由で購入、レンタルができますので事務局までご相談ください。

⑤CPR（心肺蘇生法）やAEDについてのスタッフ研修はありますか？

はい ・ いいえ

いざという時に、冷静に判断し行動ができるよう定期的な研修の実施をお勧めします。最寄りの消防署などにご相談ください。また、認定証の有効期限が切れているかの確認も必要です。

⑥R I C Eなどの応急処置についてのスタッフ研修はありますか？

はい ・ いいえ

できれば定期的な研修が望ましいですが、少なくともR I C Eについての基礎知識を病院リストと同様に、フロント、コーチ控室、事務所等、複数ヵ所への掲示をおすすめします。

R I C Eとは応急処置の基本で、受傷直後に行い、ケガの悪化を防ぐため、また復帰を早めるためにとても重要とされています。

R=R e s t (安静) まずは患部を安静にさせることが重要です。

I=I c e (冷却) 冷却することで痛み、腫れ、炎症を抑えます。

C=C o m p r e s s i o n (圧迫) 患部の適度な圧迫は腫れと炎症を抑えます。

E=E l e v a t i o n (挙上) 心臓より高い位置に挙上することで腫れや炎症を抑えます。



R I C Eはあくまで応急処置です。R I C E処置後には専門医等で診察してもらいましょう。

⑦レッスン日報など、日々のレッスン内容についての記録はありますか？

はい ・ いいえ

事故についての検証や、発生時の状況をスタッフ間で共有することで、同様の事故の再発防止にも役立てることができます。

⑧始業時に安全管理についての確認は義務化されていますか？

はい ・ いいえ

季節や天候、参加人数、あるいは施設面の注意が必要なこと等々を確認しましょう。上記のような与件での事故発生を防ぐにはスタッフ間の目線の統一が必要です。

⑨事故発生報告について、統一されたフォーム（書式）はありますか？

はい ・ いいえ

どこに問題があったのかを確認、把握することが、以降の事故防止に役立ちます。事故報告書は責任者が内容確認のうえ捺印し、保管しておくことも重要です。

⑩重大事故に至らなかった微細な事故についての報告システムはありますか？

はい ・ いいえ

ハインリッヒの法則 (1 : 29 : 300)

1件の重大事故の裏には、29件の中程度の事故があり、その裏には怪我はしないが、ヒヤっとした300件の体験があるとされています。

⑪安全管理に関するミーティングは実施されていますか？

はい ・ いいえ

定期的に行うことで、スタッフの安全管理に関する意識が高まります。
その週や月に発生した事故に関する情報の共有をすることで再発防止に役立ちます。
ミーティング内容は議事録として保存しておきましょう。

⑫発生事故について、検証されていますか？

はい ・ いいえ

何に問題があり発生した事故なのか、どうすれば再発を防止できるのか、不幸にして発生してしまった事故を教訓にしていきましょう。

⑬事故被害者への対応・フォローのシステムはありますか？

はい ・ いいえ

事故発生時の初期対応がとても重要です。誠意を持って接することが最も大切なことです。
事故発生後のフォローは、誰が？どんなタイミングで？諸々のことをシステム化しておくことで迅速に動くことができます。それがお客様に安心していただくことにもつながります。

「いいえ」はいくつありましたか？

7以上・・・今すぐ改善が必要です。すぐにできるものから手をつけていくことをおすすめします。

4～6・・・自事業所に必要なものを取り入れることでより良くなります。

1～3・・・かなり意識度が高い事業所です。

0・・・素晴らしい安全管理体制です。工夫している点があれば情報をお願いします。

ケガをする = 大好きなテニスができない！ということです。

経営者、責任者の意識が変わるだけでクラブ、スクールは大きく変わります。

大切なお客様が安全に安心して快適にプレーできる環境、そしてそれを作っていくスタッフの意識改革と教育。それはテニスを生業としている私たちの大きな仕事の一つです。